# ロータリー報告書　横田圭祐
# チューリッヒ大学大学院　データサイエンス専攻

チューリッヒ大学大学院でデータサイエンスを専攻している横田圭祐です。報告が遅くなってしまい大変申し訳ございません。先日、最初のセメスターの最後の授業が終わりました。試験が約１ヶ月後にあるためまだまだ気は抜けませんが、一段落した形になります。

この数ヶ月間は必死に授業に食らいつくという期間だったと思います。私にとって海外の大学で授業を受けるのは初めての経験で多くの学びがあると共に、多くの困難がありました。また、日々の生活でも初めての土地で１から生活の基盤を整えるという経験は学びが多い一方で大変なことも多い日々でした。

チューリッヒはドイツ語圏ということで街中の表記は基本的に全てドイツ語になります。駅の名前からスーパーで売っている食品の１つまで全てがドイツ語になっています。ドイツ語を読めない私に取っては何が何だかわからないというところから始まった留学生活です。例えば、洗剤と柔軟剤の違いがわからない。ボディソープとシャンプーとボディミルクの違いが分からないなど生活費需品を揃えるだけでも大変でした。Google 翻訳を片手にスーパーで悪戦苦闘していたことが昨日のことのように思い出されます。また、スイスは想像通り物価が高いです。例えば鶏胸肉２枚で 1000 円を超えるなど、日本では考えられない価格の商品もあります。このような状況でいかにバランスよく栄養を摂るのかということも課題の１つでした。今では助け合える日本人の友人や他の国から来ている留学生、そしてスイス人の友達ができたことで不自由さはありつつも大きな問題なく暮らせています。留学生活では授業で学ぶ知識はもちろんですが、このように海外で生き延びていく日常の全てが経験となり学びとなり自信に変わっていっていると実感しています。

さて、次は大学での生活について報告します。データサイエンス専攻ということで、データを分析する一般的な手法の数学的な背景を学ぶことができました。それだけでなく、それらの手法をどのように実社会に活かすのかということも学ぶことができました。ただし、ここで伝えたいことは授業で学ぶ知識というのは留学生活の学びの中で極一部に過ぎないということです。それよりも、グループで取り組む課題で年齢も国籍も、性別もこれまでの経験も何もかもが違う人たちと１つの成果を出すという経験が大きな学びにつながっています。そして、これこそが留学しなければ得られなかった経験だと感じています。留学当初は周りの学生にどう合わせ

るのか。どうすれば足手纏いにならないのかということで精一杯でした。しかし、時間が経つにつれ自分がグループのリーダーとして議論を進めていく。グループにとって重要な意思決定を行うことができたことは、大きな自信につながっています。

最後に、これからについてお話しします。このセメスターは授業についていくことで精一杯でした。しかし、一旦セメスターに区切りがつき１ヶ月以上のお休みがあります。その時間を用いて学校やチューリッヒ市内で開催されるイベントに積極的に参加し学校以外でのコミュニティにも友人を作りたいと思っています。また、留学してからいまだにチューリッヒの外に出たことがありません。休みを使ってスイスの他の都市や、近隣の国に旅行に行き、同じスイス内でのチューリッヒとの違い。同じヨーロッパの国の中でスイスと他の国の違いなども学べたらと考えています。しかし、まずは１月にある試験に向けて勉強に力を割きたいと思っています。

↑チューリッヒと調べると出てくる写真

チューリッヒ大学とその図書館

大学の裏庭からの風景（チューリッヒ市内）

クリスマスマーケット

飲み物はグリューワインという名物ドリンクです。（ホットワインのようなもの）